

2013年度春の三者総会 議案書

2014年度三者事務局校・首都大学東京

平成26年3月29日

目次

1	2014年度予算案 【修正版】	2
1.1	収入予定(概算)	2
1.2	支出予定	3
1.2.1	各三者役職校の支出予定項目	3
1.2.2	各パート役職校の支出予定項目	4
1.3	連絡	5
2	新たな財源の探求	6
2.1	Web 広告費収入	7
2.2	新たな援助団体の探求	7
3	夏の学校の活性化のための新たな活動	8
3.1	優秀研究発表賞	8
3.2	夏の学校の企画に関するアンケート	9

2014年度春の三者総会 議案書
文責 : 三者センター校(筑波大学)代表 宮本貴也

1 2014年度予算案 【修正版】

[2014/03/19 現在]

1.1 収入予定(概算)

- (1) 前年度繰越金(2013年度決算終了時の繰越金額を記載): ¥717,944
- (2) 参加費(参加者が300名の場合): ¥4,000 × 300 = ¥1,200,000
- (3) 外部団体への援助・協賛申請(内訳は下表): ¥950,000

団体名	内容	今年度申請額
素粒子論グループ	旅費補助	450,000 ¹
基研	講師等旅費, ポスター印刷費 ²	500,000 ³
RCNP	協賛	0
原子核談話会	協賛, 原子核研究出版費	0
高エネルギー研究者会議	協賛	0
申請額合計		950,000

収入合計 : (1) + (2) + (3) = ¥2,867,944

¹昨年度秋季学会にて援助申請を行った。承認して頂き、援助をしてもらうことが決定した。

²ポスター印刷費は、実際にかかった費用のみが支払われる。

³1月の基研共同利用委員会にて援助申請を行った。承認して頂き、援助をしてもらうことが決定した。

1.2 支出予定

各役職校からの予算申請を元に作成した。内訳は次節以降に記載する。

役職名	今年度予算案	前年度決算額 ⁴
三者センター校	1,000	420
三者事務局	0	0
三者準備校	336,000	322,378
三者名簿校	0	0
素粒子論パート事務局	0	0
素粒子論パート準備校	10,500	5,348
原子核パートセンター校	0	0
原子核パート準備校	5,000	1,108
高エネルギーパート準備校	0	0
計	352,500	329,254

上記の他に、『学生旅費補助』、『次年度繰越金』、『ポスター印刷費(上限10万円)』、『講師旅費』などがある。

1.2.1 各三者役職校の支出予定項目

- 三者センター校 (筑波大学)

申請項目	申請額
振込手数料	1,000
申請額合計	1,000

- － 振込手数料：宿泊費の振り込み手数料：1000円
(参加者の宿泊費など振込額数千万円を宿へ一回)

経費削減のため、各役職校への予算は夏の学校当日での手渡しとする。

⁴前年度決算は2013年度三者センター校の決算報告に基づいている。

- 三者準備校 (金沢大学)

申請項目	申請額
施設使用料	263,000
コピー代	20,000
文具代	10,000
郵送費	20,000
下見交通費	23,000
申請額合計	336,000

- － 施設使用料：当日の会議室などの使用料やスクリーン等のリース代
- － コピー代：ポスターや参加受付の際に配布する資料等の印刷費
- － 文具代：講義等で用いるホワイトボードマーカー等の費用
- － 郵送費：各研究室へのポスターの郵送費
- － 会場下見代：来年度の会場 (パノラマランド木島平) への下見代

1.2.2 各パート役職校の支出予定項目

- 素粒子論パート準備校 (東京工業大学)

申請項目	申請額
機材送料	4,500
消耗品代	6,000
申請額合計	10,500

- － 機材送料
 - * コードドラム送料 (夏の学校開催地 次期素粒子パート準備校) ¥1,500
 - * ピンマイク往復送料 ¥3,000
- － 消耗品
 - * 講義記録用のSDカード ¥3,000
 - * 電池 (レーザーポインター用) ¥500
 - * ホワイトボードマーカー・レーザー ¥2,500

- 原子核パート準備校 (新潟大学)

申請項目	申請額
文房具代	3,000
コピー代	2,000
申請額合計	5,000

- － 文房具費：ポインター用電池、ポスター発表用画鋏・セロテープなど
- － コピー費：講義ノートと研究会アブストラクト集の印刷

1.3 連絡

- 予算の受け渡し：各役職校に予算案を提出して頂いた際にもご連絡しましたが、予算の受け渡しについては夏の学校当日、現地にて直接行う予定です。これは振り込みの際の手数料を削減するためであり、できる限りご協力ください。
- 領収書の提出：夏の学校の決算時には予算の全ての支出に対して領収書を提出して頂きます。領収書の但し書き・品名等は出来るだけ具体的に記入し、予算の各項目との対応関係がはっきり分かるようにしてください。領収書の宛名は『三者若手』です。
また、センター校への領収書の提出の具体的な様式は4月中旬に改めてご連絡しますので、すでに予算を執行している役職校は領収書を無くさないようお願いいたします。
- 財源の節約：夏の学校には毎年多くの学生が参加してくれますが、金銭的な問題で参加できない学生も少なくはありません。夏の学校に参加できる機会を全国の学生に少しでも与えるために、財源を出来る限り「学生旅費補助」に充てたいと考えています。これには皆さま各役職校の協力が必要であるため、代用できる物品などがあればなるべく新品を買うことは避けるなど、夏の学校の財源から物品を購入する場合は出来る限り節約するようご協力をお願いいたします。

2 新たな財源の探求

原子核三者若手夏の学校は全国から大学院生が300人ほど集まる大規模な研究会であり、全国の学生にとって大変有意義なものとなっている。しかし夏の学校に参加するためには旅費・宿泊費の負担が大きく、学生の中には金銭的な問題で夏の学校に参加できない者もいるのが現状である。これは、昨年度夏の学校の際に行った旅費補助に関するアンケートにより明らかになった⁵。原子核三者若手夏の学校をより活発な研究会とするためには、学生の金銭的な負担を減らし夏の学校に参加しやすくする環境を作らねばならず、その為には学生への旅費補助の額を増やすことが必要となる。

しかし、夏の学校の収入は学生の参加費・素粒子論グループからの援助金・基研からの援助金の3つからなり、援助金に関してはそれぞれの機関の予算の変動によって減額する可能性も十分にあり得る⁶。

以上のことより、これからも安定して十分な予算を学生旅費補助に充てるためには新たな財源が必要であると考えられる。ここで、昨年度の三者総会では

- (I) Web ページ上に広告を掲載することにより広告費収入を得る
- (II) 新たに援助団体を探す

の2つが承認されたが、その後の具体的な実行案は決定されていないためここで提案する。

⁵開催地から離れた大学に通う学生は総額10万円ほどの負担となっている。

⁶実際に昨年度夏の学校の基研からの援助金は5万円の減額となった。

2.1 Web 広告費収入

三者若手夏の学校の Web ページに広告を掲載する案に関しては、昨年度夏の学校の三者総会にて承認された。そこで、今年度夏の学校では以下の手順で財源獲得を行う。

- (i) 夏の学校 Web ページを掲載する有料サーバーを決定する⁷。
- (ii) 夏の学校の Web ページを作成する。
- (iii) Web ページに広告として掲載する団体の候補を決定する。
- (iv) 候補の団体に連絡し、可否を確認する。
- (v) Web ページに広告を掲載し、広告費を頂く。

ここで、(ii)、(iv)、(v) の手順は基本的に事務局校が行い、(i) 有料サーバー、(ii) 団体の候補は各役職校からの意見をまとめて決定するものとする。また、(v) 広告費に関しては三者センター校の口座に振り込むようにして頂くようにする。

これらの手順は夏の学校の参加登録を始める 6 月までに終わらせておくことが望ましい。

2.2 新たな援助団体の探求

現在資金的援助を頂いている素粒子論グループ・基研以外の団体から新たに援助を頂く案に関しても、昨年度夏の学校の三者総会にて承認されている。今年度夏の学校では以下の手順で援助団体の決定を行う。

- (i) 新たに援助をして頂く団体の候補を決定する。
- (ii) 候補の団体に連絡し、可否を頂く。この際に、直接プレゼンテーションを行う機会を設けて頂く可能性もある。
- (iii) 直接プレゼンテーションを行う場合は、援助を頂く団体に赴きプレゼンテーションを行う。
- (iv) 援助の可否、具体的な援助額（予定では 20 万円）を決定する。
- (v) 援助金をセンター校の口座に振り込む日程を決定する。

これらの手順に関しては基本的に三者センター校が行う。

- (i) 団体の候補については各役職校からの意見をまとめて決定する。

⁷従来の基研のサーバーでは、広告による収入を第三者（京大以外の団体）が手にすることは出来ない。また、同様な理由で各大学のサーバーを用いて広告費を得ることも不可能と考えられる。

3 夏の学校の活性化のための新たな活動

三者センター校は1月に基研共同利用委員会にて援助金申請の為のプレゼンテーションを行った。その際に、他分野の夏の学校（物性・天文・生物化学）の代表も申請の為に来ており、それぞれの夏の学校の特色を活かしたプレゼンテーションを行った。他分野の夏の学校では原子核三者若手夏の学校と同様に学生同士の研究発表、著名な研究者を招いての講義などを行っていたが、より活発な研究会とするために様々な工夫がなされていた。

夏の学校には毎年多くの学生が参加するが、これから先も安定して多くの学生が参加するとは限らない。原子核三者若手夏の学校をこれからも活発な研究会として成り立たせるためには、全国の学生に『参加したい』と思わせられるような、他の研究会にはない魅力的な活動が必要であると考えられる。

そのためには、これまでに無い新たな活動・企画が必要である。その候補をここで提案する。

3.1 優秀研究発表賞

まずひとつ考えられる企画は、研究発表を聞いた学生に対し発表の評価に関するアンケート（発表内容の興味深さ、発表スライドの見やすさ、発表の分かりやすさなど）を実施し、評価が良かった学生に対して優秀研究発表賞を用意するというものである。これは、天文夏の学校で実際に行われているものである。

この企画に関しては、次のようなメリット・デメリットが考えられる。

- メリット

- － 発表者はより工夫をして面白い発表ができるようになる。
- － アンケート結果を発表者に渡すことで今後の発表の参考とすることができる。

- デメリット

- － 三者若手夏の学校では研究発表が各パートで分かれているので集計が取りづらい。
- － 副賞を高価なものにすると、物欲しさにアンケートを偽造する学生が出てくる可能性がある。
- － 発表後のアンケートの集計や副賞の購入など、新たな手間が増える。

3.2 夏の学校の企画に関するアンケート

夏の学校の企画の良し悪しは参加した全国の学生に直接伺うのが最も良いと考えられる。よって、夏の学校終了時に企画に関するアンケートを参加した学生に対し実施することを提案する。

アンケートを取る内容は以下のとおりである。

- 今年度の夏の学校の企画は良かったか、来年度も続けた方が良いか。
- 夏の学校の企画として希望する内容はあるか。

アンケートを取ることは集計の手間が増えるなどのデメリットもあるが、今後の夏の学校の活性化の為にも是非実施すべきであるとする。